



EL PRIMERO 誕生 50 周年

50 年の成功を振り返って

第 6 章：

2010 年 - 2019 年：究極の精度に向かって

もうすぐ終わろうとしているこの 2010 年代に、私たちは、コントロールすることのできない多くの矛盾した現象を目にしてきました。そして、過行く時間という概念を理解しようとして、常に状況に合わせた調整を強いられてきました。私たちはかつてないほど、時間の中に仕事や気晴らしを満杯に詰め込んでいます。そして逆説的に、思考や会話の中で、「現在」がこれほど重要な位置を占めたこともありません。The Power of Now（『さとりをひらくと人生はシンプルで楽になる』）の著者、Eckhart Tolle（エックハルト・トール）を信奉する人々がますます増えているのを見るだけで、私たちの手をすり抜けるこの「現在」というものが、幸福の追求においてどれほど重要な要素の一つであるか、知ることができます。この時代に生きる人々は、絶え間ない過剰適応を奨励する矛盾した形態に支配される世界に住むという事実をわれ知らず受け入れながら、これらの両極の間で揺れ動いています。

この複数の速度という時間のビジョンを前にして、ゼニス、時間に目で触れる、現在を文字通り「見る」機会をお客様に与えながら、即時性という概念を理解しようと努めてきました。El Primero は、1/10 秒単位の計測が可能な世界初の自動巻ムーブメントとなりました。2010 年に発表された El Primero Striking 10th は、秒針が 1/10 秒で文字盤を 1 周し、1/10 秒を読み取ることができるモデルです。

このタイムピースは、人が自分自身にスポットライトをあてながらごく小さなトライブを作り、そのトライブが所属する人を増やしながらかにはコミュニティーさえ形成していくような、複雑な時代に登場しました。Striking 10th と同じ 2010 年に誕生した Instagram は、こうした現象に大きく貢献しました。この新しいソーシャルメディアは、即座の反応を促すものであり、もはや言葉を必要とせず、「いいね！」ボタンによって自分の評価をほんの一瞬で伝えることを可能にしました。即時性の中に人々が意味を見出さそうとしているこの 2010 年代にあって、El Primero Striking 10th は、この時代を要約するオブジェとなっているのです。

卓越したノウハウへの信頼が自分の限界を超えることを後押ししなかったなら、ゼニス マニファクチュールは、究極の精度の探求をそこで終わらせていたでしょう。しかしゼニスは、2017 年、極めて到達が困難な 1/100 秒という単位で計測・表示することが可能な Defy El Primero 21 を発表しました。これは、それ以前の伝説のムーブメントの 10 倍の速さにあたる、50Hz で振動する「エンジン」によって可能になりました。ムーブメントの心臓部は毎時 360,000 回という驚く速さで振動し、中央のクロノグラフ針は文字盤を 1 秒で 1 回転します。まさに、ゼニスを究極の精度の世界に導いた偉業です。

これと同じ年、ゼニスは単結晶シリコンで作られた一体構造の革新的な新型オシレーターを搭載した Defy Lab を発表しました。1675 年にドイツの科学者 Christiaan Huygens（クリスティアーン・ホイヘンス）によって発明され、これまで機械式時計に使われてきたテンプレヒ・ゲゼンマイの代わりに、この新型オシレーターが採用された



のです。18Hz という並外れた振動数を持つ Defy Lab を誕生させるにあたり、ゼニス は LVMH グループの研究開発部門での長年の研究の恩恵を受けました。そうしたノウハウが時計精度で 2,333 もの受賞記録を持つゼニスに移転されることは必然の流れでした。

当然、これからのゼニスの未来は、常に可能性と最高の精度の限界を押し広げる技術革新を推進するものとなっていくでしょう。実際、El Primero がいつか 1/1000 秒を表示できる日が来るかもしれません。

しかしまずは、今年誕生 50 周年を祝う伝説のムーブメントにまた戻りましょう。50 歳という年齢は、新しい挑戦に乗り出すために自分を変えることのできる「無分別な」年齢でもあります。50 歳という「若さ」に、不可能なものはありません。El Primero の半世紀を祝うにあたり、ベーシックなムーブメントは、組み立てがより簡単になるよう改善が加えられました。もちろんその外見や技術的特徴は変わりません。一体型高振動ムーブメントであることにも変わりはなく、日付表示、水平クラッチ、コラムホイールもそのままです。ただ、部品数はオリジナルモデルよりやや少なくなると共に、秒針停止機能や、エネルギーを多く必要とするためこれまで 50 時間だったパワーリザーブの延長を含む、重要だと思われるいくつかの要素が付け加えられました。こうした構造は、モジュールでのアプローチを可能にし、モデルによって 1/10 秒の振動が見えたり、フライバック機能を加えたりすることができるようになります。

毎日 El Primero の製造に携わり、どんな細かい部分をも知り尽くしている人々は、このムーブメントが魂を持つオブジェであると感じています。マニファクチュールの時計職人の一人はこう語っています。「El Primero という名前は、精度の点でも毎時 36,000 回という振動数の点でも、あらゆる点で一番であることを考えれば、実にふさわしい名前だと思います。このムーブメントの製造に携わる者として、誇りを感じずにはられません。それほど完成度が高いムーブメントなのです！El Primero は、一旦救出され、再び製造されるようになってから、常に改良が加えられてきました。進化し、成長を続けていく中で、数多くの複雑機構が加えられましたが、本来の高貴さを保ってきました。そして美しさも変わらないままなのです！このムーブメントは歴史を体現するものに他なりません。ゼニスは El Primero であり、El Primero はゼニスなのです。」